●書学書道史学会
会報
第51号

令和8年(2026)5月15日発行
編集・発行
書学書道史学会
広報局
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル7F
(株) 毎日学術フォーラム内
TEL (03)6267-4550
FAX (03)6267-4555
MAIL maf-syogaku@mynavi.jp

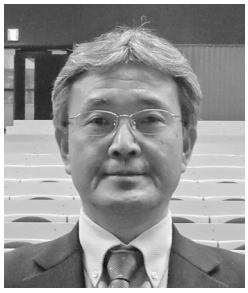
理事長就任にあたって

菅野　智明

この度、河内利治前理事長の後を継いで、第19期の理事長を拝命いたしました菅野智明です。微力ながら学会の発展に向けて努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学会は、近4年2期にわたり、河内前理事長のお導きのもと、新たな部局体制を確立させてまいりました。果たして大会に加え例会も軌道に乗り、会誌では査読判定基準の公開により、学術誌としての性格を明確にいたしました。渉外・広報活動も活発化し、HPには研究に資する内外の関連情報が頻繁に掲載されています。研究振興のための助成事業も順調です。役員をはじめ関係各位のこれまでのご尽力に、改めて御礼申し上げます。

その一方で、本学会が直面する課題も少なくありません。先の『会報』第50号で告知されました年会費の見直しや、研究倫理に対する意識喚起策の検討は、最優先で取り組んでゆく必要があります。こうした学会活動の基盤として、ここで一つ取り上げたいのは、昨今よく耳にする組織のエンゲージメントについてです。



組織のエンゲージメントとは個人の組織に対する愛着や信頼、思い入れなどを指すそうですが、法人組織のみならず、私たちのような任意団体にあっても大きなテーマです。それを強く意識させる目安の一つが組織を離れる方々の多寡です。本学会では、毎年度初回の理事会にて、退会を希望される方を一覧で確認しておりますが、いささか気になるところです。方々のご退会には、それぞれのご事情があり、そこに立ち入ることはできません。その一方で考えるべきは、本学会が愛着や信頼を感じられる存在であったかという点です。

本学会は、会員の皆様へ遍く斯学の新たな知見を提供すべく、鋭意努めてまいりました。それに向けた近年の改革は上述のとおりです。ただし、皆様と本学会とのつながりは一様ではなく、それぞれ大切になさっているところがあろうかと拝察いたします。そのことを踏まえ、皆様のお考えを相互に尊重し合う場作りを今以上に推進してゆく所存です。あわせて、斯学の発展に向けては、皆様のご支援が不可欠であることも、改めて申し上げなくてはなりません。会誌の発行はもとより、特に上述の助成事業は、皆様のお力添えによって、次世代の研究環境改善に大きく貢献しています。尊重し合い、支え合う――月並みではありますが、個人と学会との関係を省みるとき、この点に立ち返る必要性を切に感ずる次第です。

なお、本学会では、会員の皆様の貴重なご意見をいただく場も設けております。例会のオンライン配信、そして大会のハイフレックス開催、双方とも企画に対するご感想の他、学会に対するご意見を広くお寄せいただくために、専用のフォームをご案内いたしております。上述の運営が、果たしてエンゲージメントの向上に結び付いているのか、どのような対応が新たに必要か、皆様のご意見を是非とも頂戴いたしたく存じます。

最後になりますが、『会報』第50号でお知らせいたしました藝術学関連学会連合への加盟申請について、このたび正式に加盟が承認されましたので、この場を借りてご報告いたします。これにより、同連合主催のシンポジウム（7月25日、早稲田大学）には、会員の皆様は無料でご参加いただけます。一方、東洋学・アジア研究連絡協議会の大会は、11月に国際大会として実施の予定です。両コンソーシアムの企画の仔細は、逐次HP等でお知らせいたします。以上ご報告申し上げ、ご挨拶といたします。

（本会理事長）

第36回 書学書道史学会大会開催のお知らせ

企画局

今年度の書学書道史学会大会は、10月24日（土）、25日（日）の両日にわたり、群馬大学荒牧キャンパス（群馬県前橋市）において、対面方式での開催を予定しております。開催に際しては、やむを得ない事情で対面方式による参加が困難な方には、事前にお申し出いただくことで、オンラインでの聴講参加も可能とするように対応します。大会参加費は、対面、オンラインを問わず一般会員が2，000円、学生会員は無料といたします。

詳細および参加申込については、9月下旬に「大会のしおり」として研究発表のレジュメとともにご案内を差し上げます。現時点での概要は以下のとおりです。開催方法は「大会のしおり」の発送の後にも変更する場合があります。最終的には学会HPでお知らせしますので、ご承知おきください。

なお、今大会は、前橋観光コンベンション協会様よりご賛助をいただいておりますので、ぜひ対面でのご参加をくださるようお願いいたします。

◆理事会

10月24日（土）
11時00分～　群馬大学荒牧キャンパス　於：6号館（C棟）C202

◆大会

10月24日（土）　群馬大学荒牧キャンパス　於：6号館（C棟）C204
12時00分～　受付開始
12時45分～13時25分　開会式、総会
13時30分～15時00分　研究発表（3本程度）
15時15分～16時45分　シンポジウム「近代東アジアの〈官展〉と書」（仮）
柳田　さやか 氏（島根大学）
金　貴粉 氏（国立ハンセン病資料館）
柯　輝煌 氏（東京大学大学院）
徳泉　さち 氏（日本大学）
17時00分～18時30分　懇親会　於：大学会館（生協食堂）

10月25日（日）　群馬大学荒牧キャンパス　於：6号館（C棟）C204
9時30分～12時10分　研究発表（5本程度）
12時10分～13時00分　記念撮影、昼食
13時00分～14時00分　研究発表（2本程度）
14時10分～15時20分　講演
「上野三碑と書　―日本石碑文化の原点として―」
前澤　和之 氏（群馬県文化財保護審議会専門委員）
15時20分～15時30分　閉会式

◆群馬大学荒牧キャンパスへのアクセス

JR前橋駅北口2番乗り場から：
・「群馬大学荒牧経由　渋川市内循環　渋川駅行」または「小児医療センター行」にて「群馬大学荒牧」下車（徒歩10分）。
・「渋川駅行」または「渋川市内循環　渋川駅行」にて「前橋自動車教習所前」下車（徒歩20分）

◆宿泊施設について

役員、会員ともに各自で手配願います。

◆お問い合わせ先

書学書道史学会事務局
〒100―0003　東京都千代田区一ツ橋1―1―1
パレスサイドビル7F　(株)毎日学術フォーラム内
FAX：03―6267―4555
メールアドレス：maf-syogaku@mynavi.jp

第36回 書学書道史学会大会研究発表者募集要項

企画局

今年度の書学書道史学会大会は、右記のとおり開催いたします。会員各位には、日頃の研究成果を意欲的かつ積極的に発表いただきたく、左記の要領で募集します。

記

①開催日／方法…10月24日（土）、25日（日）／対面での発表を原則としますが、オンラインによる参加会員のために電子データをご提供いただきますので、ご承知おきください。

②発表時間…各30分（発表20分、質疑応答10分）

③申込方法…Eメールにて、右記お問い合わせ先（事務局）までお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会大会発表申込（※発表希望者氏名を付す）」と明記してください。また本文の冒頭に「所属・氏名・連絡先」を記したのちに、発表内容の題目および発表内容の要旨をレジュメ（800字程度）にまとめてご提出ください。

④レジュメ…原則として、ワープロ（テキスト形式、WORDファイル形式のいずれか）で作成し、申込時のEメールに、ファイルを添付して送信してください。

⑤申込締切…6月30日（火）必着

⑥発表者の決定と連絡…7月12日（日）開催予定の常任理事会にて協議・決定し、採否の結果は個別に連絡いたします。

⑦レジュメ集の公開…上記の「大会のしおり」（9月下旬配付）には、研究発表レジュメ集を添える予定です。この内容はホームページにも掲出いたします。

⑧学生会員研究発表旅費補助制度

本学会の大会等に対面参加して研究発表を行う学生会員に対し、必要な旅費を補助しております。旅費補助を希望する学生会員は、ホームページの「学生会員研究発表旅費補助制度規程」をよく読んだうえで、「学生会員研究発表旅費補助申請書」をダウンロードして必要事項を記入し、右記の申込時のEメールにレジュメとあわせて添付してください。補助の可否と補助額は発表の採否と同時に連絡します。

※注記

・大会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第37号への投稿申込があったものとして扱われますので、改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。

・学会誌への論文投稿締切は、令和9年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は論文査読委員会によって決定されます。

名誉会員の推挙について

理事長

令和8年4月1日付で改正された会則第5条の規定に基づき、4月19日の令和8年度第1回理事会において、河内利治氏（第17・18期理事長）が名誉会員に推挙されました。本学会の発展に尽くされましたことに心より御礼申し上げるとともに、今後の益々のご活躍を祈念いたします。

名誉会員・賛助会員一覧

事務局

◆名誉会員（五十音順、令和8年5月1日現在）

新井儀平　浦野俊則　大橋修一　河内利治　澤田雅弘
中村伸夫　野中浩俊　古谷　稔　松丸道雄

◆賛助会員（五十音順、令和8年5月1日現在）

謙慎書道会　玄　潮　会　創玄書道会
貞　香　会　東方書道院　臨　池　会

新入会員紹介

事務局

◆一般会員

石丸真弥（大東文化大学）
檜作直美（茨城県立茎崎高等学校）
山本桜子（前橋市立時沢小学校）

◆学生会員

太田　花（大東文化大学大学院）
川名泰暉（筑波大学大学院）
佐々木あかり（大東文化大学大学院）
中谷帆香（大東文化大学大学院）
中村侑加（大東文化大学大学院）
萩尾怜奈（大東文化大学大学院）
廣瀬光汰（大東文化大学大学院）
廣瀬　澪（大東文化大学大学院）
宮口拓己（大東文化大学大学院）

※令和8年1月～4月に申請された方

2026年度書学書道史学会例会のお知らせ

企画局

今年度の例会は、7月12日（日）午後にオンラインでライブ配信として開催します。例会への参加は無料です。プログラムは以下のとおりです。

13時30分　理事長挨拶・趣旨説明
13時35分～14時55分　研究発表
①13時35分～14時15分「契沖の文字意識の一考察
—近世往来物との比較を中心に—」
海藤侑里子（筑波大学大学院）
②14時15分～14時55分「董其昌書法をどのように見るか —「尺牘稿巻」を中心に—」
尾川明穂（筑波大学）
15時00分～16時30分　講演
「往年の北京大学と初期中国書法研究（1918—1952）」
祝帥氏（北京大学芸術学院教授）

◆講師紹介

祝帥（しゅく すい）氏

北京大学図書館副館長などを経て現職。中国書法家協会理事（学術委員会委員）、中華美学学会設計美学専業委員会副主任、中国新聞史学会博物館与史志伝播専業委員会副理事長、第十一次全国文代会代表などを兼任。文学博士（北京大学）。書法史、書法理論を専攻する他、芸術学、デザイン学にも精通する。中国文聯文芸評論賞（2012年）、中国書法蘭亭賞・理論賞（2013年、2015年）、中国美術賞・理論評論賞（2014年）などを受賞。主な専書に『従西学東漸到書学転型』（故宮出版社 2014年）、『中国書法批評史・現代編』（江蘇鳳凰美術出版社 2022年）、編著・共著に『書画同源：趙之謙』（栄宝斎出版社 2018年）、『張宗祥 書学源流論・顧鼎梅 書法源流論』（上海書画出版社 2018年）等。論文も多数。

◆申込方法

6月30日（火）までに下記のURLまたは二次元コードからアクセスしていただき、必要事項を入力の上ご送信ください。例会の前日までに、参加のURLと資料等をお送りいたします。

https://forms.office.com/r/k8dTYtYgKF

2026年度書学書道史学会例会 参加申込フォーム

皆様のご参加をお待ちしております。

①契沖の文字意識の一考察
—近世往来物との比較を中心に—

海藤　侑里子

本発表の目的は、学僧・契沖（1640—1701）の自筆資料と近世期に広く普及した往来物との比較を通して、契沖の文字意識の一端を明らかにすることである。

往来物は、明治前期以前に寺子屋や家庭などで用いられた学習書であり、平安末期の『明衡往来』が最古のものとされている。もとは手紙の文例集として成立したが、江戸時代には庶民教育の普及とともに多様な種類が成立し、国立教育政策研究所によれば、熟語類・消息類・歴史類・地理類・訓育類・実業類・合書に分類される。これらは教育や実用性を目的とする書物であり、読みやすさや理解のしやすさを意識した文字表記が用いられていたと考えられる。

一方、近世国学の形成に大きな役割を果たした契沖は、『万葉代匠記』『和字正濫鈔』などの著作を通して古典研究に注力した人物であり、その自筆資料には注釈書・語学書・和歌・書簡など多様な種類が存在する。そしてこれらの資料を観察すると、用途や性質に応じて文字の様相に違いが見られることがわかる。

従来の契沖研究は、主として国学史や文献学の観点から行われてきたが、自筆資料における文字のあり方については、中澤伸弘氏の論考の他に十分に検討されたものは管見の限りみられない。そこで本発表では、契沖自筆本に見られる文字の特徴を整理し、それらを近世期の往来物と比較することによって、用途の異なる文献における文字表記のあり方について検討する。具体的には、字形や仮名字体の選択といった観点から分析を行い、契沖が資料の性質に応じてどのような文字意識をもって文字を記していたのかという点に言及する。

以上の検討を通して、契沖の自筆資料に見られる文字の特徴とその書き分けの実態について、往来物との比較を手がかりに考察し、近世期における文字表記の形成過程を考えるための一つの視点を提示する。

（筑波大学大学院）

②董其昌書法をどのように見るか
―「尺牘稿巻」を中心に―

尾川　明穂

歴代書人がそれ以前の古法をいかに摂取したかについて窺う場合には、①その書論に見える古人・名跡への評価、②臨書・倣書やそれに関する記録、③古人の書風との近似、④書風の年代的変化などといった観点から検討されることが多い。これらは、伝存資料や書風の幅が限られる書人ではそのまま有効であろうが、董其昌（1555―1636）においては、多様な書風を同時に展開したり、高く評価しない古人を臨書するなどといった複雑な状況が見られ、これに代筆・偽筆の問題も相まって、その実態を窺うのは困難であるように思われる。董其昌の書論に目を転じてみると、40代前半以降、複数古人の書法を取り混ぜたり、古人から変化・離脱することを謳うようになり、中には「定法」のないことを理想とするなど精密な解釈の難しい主張も存在する。彼の書作がそれらと対応する可能性も想定しつつ、改めて見つめなおす必要があろう。

本発表では、まず、董其昌が擬古・反擬古を主張した期間と、名跡数件を収蔵した期間によって、彼の書法が大まかに時期区分できることを述べたい。その上で、文字の大きさ（字径）により更に細かな書風分類が可能であることを確かめてみたい。ここで特に扱いたいのは、董其昌「尺牘稿巻」（個人蔵）である。全6通分のうち一部は晩年の筆と推測されるもので、率意のために様々な書風・字径を含んでおり、書風と字径が連関している可能性も考えられる。これ以外の董其昌書跡を含めて通覧すると、手指の動きを抑えつつも機能的に書写するという基盤的な筆法があり、それが字径・書体・書写年代などの違いによって様々な書風を生みだしたものと想定される。特定の古人・名跡を「臨書した」「交えた」表現は、あくまで彼自身の筆法による制約――筆線の形状や結構・章法に見られる傾きや揺れ――を前提とし、それに寄せたものではなかったか。董其昌らしさを規定する淡白軽快さについても踏まえながら考察してみたい。

（筑波大学）

講演

往年の北京大学と初期中国書法研究（1918―1952）

祝　帥　氏

書法が学問として発展していく過程にあって、往年の北京大学（特に1918年から1952年まで）からは多くの重要な人物が輩出された。そこには、書法研究社の指導者であった沈尹默、馬衡、劉季平などの著名な書家の他、蔡元培、劉師培、王岑伯、銭玄同、馬衡、孫以悌、蒋夢麟、沈従文、容庚、台静農といった往年の北京大学の多くの教員や学生が含まれる。彼らはいずれも書法の学術史における重要な人物であり、書法史の諸問題を解決しただけでなく、書法史研究を古典的スタイルから現代的スタイルへと転換させることに大きく貢献した。

本発表では、こうした往年の北京大学を事例として、新文化運動期における書法研究が伝統を継承しつつ現代化へ向かった流れを辿るものである。まず新文化運動期の北京大学における書法研究の全体像を概観し、北京大学の書法研究者が新方式の書法研究、特に書法史研究に対し、どのように貢献したかを探る。それを踏まえ、新式教育制度における伝統的な学問分野（金石学や文字学など）と書法との関係や、それらの近代学術体系への組み込まれ方について考察する。

（北京大学芸術学院教授）

第19期役員選挙について

選挙管理委員会

◆役員選挙の経過と結果

本学会選挙管理委員会は、第18期役員任期満了にともない、選挙管理規程に基づいて令和8年2月24日を投票締切日と定め、郵送による第19期役員選挙を実施しました。

開票作業は3月1日、小川博章選挙管理委員長指示のもと、選挙管理委員により、東京・上野の貸会議室において実施されました。投票状況については、投票有権者数451票のうち、有効投票99票・投票率22%（第18期：84票・投票率19%）でした。開票結果を受け、同規程第6条により、以下の通り選挙選出理事10名、監事2名を当選者として確定しました。

【選挙選出理事】（五十音順）

尾川明穂　　萱の り子　　菅野智明　　下田章平
髙橋利郎　　髙橋佑太　　富田　淳　　鍋島稲子
成田健太郎　　増田知之

【監事】（五十音順）

丸山猶計　　柳田さやか

◆第19期役員会等発足

第19期役員選挙の開票、当選者決定を受け、令和8年3月8日に選挙選出理事による臨時会議（オンライン会議）を開催し、理事長が互選されました。これに続き、理事長指名理事10名が選出され、3月29日に開催された新旧合同理事会（オンライン会議）において常任理事が互選されました。その上で、同理事会において各事業部局の分掌、選挙管理委員会委員を以下の通り決定し、第19期役員会等が発足しました。今期の役員・幹事・選挙管理委員の任期は、令和8年4月1日から令和10年3月31日までです。

第19期役員・幹事・選挙管理委員一覧（※は新任）

［役　員］

【理事長】　※菅野智明（筑波大学教授）

【副理事長】※萱のり子（奈良教育大学教授）　副編集局長
富田　淳（九州国立博物館館長）　副渉外局長

各局報告

◆企画局

今年度の大会・例会について

今年度の大会は、群馬大学荒牧キャンパスを会場として、初日にシンポジウム、二日目に記念講演を企画いたしました。会員各位には、積極的にご参加いただきたく、また研究発表にも奮ってご応募ください。

なお、7月の例会は、昨年同様にオンラインのライブ配信により実施いたします。気鋭の書法史研究者である祝帥先生が書学の近代化をテーマにご講演くださいます。こちらにも上記の要領で是非ご参加ください。

（局長　尾川明穂）

◆渉外局

学会誌35号のJ―STAGE搭載のお知らせ

令和7年10月31日発行の学会誌『書学書道史研究』35号を、本年2月27日に独立行政法人科学技術振興機構（JST）運営のJ―STAGE（ジェイ・ステージ）で公開し、学会ホームページでお知らせしました。35号に掲載される論文6件、ならびに令和6年の学会大会の澤田雅弘先生の講演録、学界展望、新刊紹介2件を掲載しています。どうぞご活用ください。

また、展覧会やシンポジウムなどの情報、学会に寄せられる諸情報を随時ご紹介します。

（局長　髙橋利郎）

◆振興局

研究促進助成金制度について

2026年度「研究促進助成金制度」による研究計画の募集を開始しました。本制度は、研究に専心できるよう諸手続を可能なかぎり簡便に設計した魅力的な研究助成制度です。ホームページに掲載されている「2026年度募集要項／研究促進助成金制度」をご参照のうえ、奮ってご応募ください。

学生会員研究発表旅費補助制度について

本制度は本学会の大会等に対面参加して研究発表を行う学生会員に対して必要な旅費を補助する制度です。遠方から参加して研究発表する学生会員の旅費負担が大幅に軽減されます。本会報3ページの大会研究発表者募集要項、およびホームページに掲載されている「学生会員研究発表旅費補助制度規程」をご参照のうえ、研究発表とあわせてぜひご応募ください。

（局長　成田健太郎）

◆編集局

『書学書道史研究』第36号の編集について

2026年3月末日で投稿を締め切り、第36号の学会誌刊行に向けて編集を開始しました。現時点で予定している原稿は、以下の通りです。

◇投稿原稿…「投稿規定」「執筆要領」に基づき、全12件の投稿に対して、チェックリストとともに原稿形式を確認し、「論文」12件を受理しました。規定に沿って査読を進め、採択原稿は『書学書道史研究』第36号に掲載されます。

◇記念講演録…第35回大会における西山厚氏による記念講演をもとにした原稿の掲載を予定しております。

◇「学界展望」…2024年度～2025年度における中国書道史領域の「学界展望」について、関俊史会員にご寄稿いただきます。

◇「書評」および「新刊紹介」…本誌で取り上げるべき書籍の推薦を随時（第36号掲載分については、2026年5月中）受け付けております。複数の著作候補が届いた場合には、編集局で対象本を検討して決定いたします。

【会員の皆さまへのお願い】

編集作業の過程で会員情報が必要になる場合がございます。事務局へお届けの連絡先に変更があった場合は、速やかにお知らせくださいますようお願い申し上げます。

（局長　下田章平）

◆会計局

年会費についてのお願い

本号に年会費納入用の郵便振替用紙を同封しています。年会費は、6月30日までにご納入ください。なお、令和8

【常任理事】
尾川明穂（筑波大学准教授）　企画局長
下田章平（相模女子大学教授）　編集局長
髙橋利郎（大東文化大学教授）　渉外局長
髙橋佑太（筑波大学准教授）　事務局長
鍋島稲子（台東区立書道博物館館長）　会計局長
成田健太郎（京都大学准教授）　振興局長
増田知之（安田女子大学教授）　広報局長

【理事】
青山浩之（横浜国立大学教授）　副企画局長
金　貴粉（国立ハンセン病資料館学芸員）副企画局長
※権田瞬一（二松学舎大学専任講師）　副事務局長
中村史朗（滋賀大学名誉教授）　副振興局長
永田徳夫（群馬大学教授）　副編集局長
福田哲之（島根大学名誉教授）　副事務局長
※峯岸佳葉（齋田記念館主任学芸員）　副広報局長
六人部克典（東京国立博物館研究員）　副振興局長
矢野千載（盛岡大学教授）　副会計局長
弓野隆之（大阪市立美術館主任学芸員）副渉外局長
丸山猶計（大東文化大学准教授）
柳田さやか（島根大学准教授）

【監事】

［幹　事］
企画局　草野　剛　剣持翔伍　※飛田優樹
長谷川智
渉外局　※柯　輝煌　春田賢次朗
振興局　角田健一　仲村康太郎
編集局　井田明宏　※海藤侑里子　※笠原綺華
山口恭子
広報局　※徳泉さち　藤森大雅　正岡知晃
会計局　佐々木佑記　佐藤汰一
事務局　來司信博　野中直之　※林　崇威

［選挙管理委員会］
委員長　※六人部克典
委　員　※権田瞬一　※丸山猶計　柳田さやか
（以上、理事・監事枠より4名）
野中直之　※林　崇威
（以上、会員枠より2名）

年3月の時点で会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されております。速やかに全額をご納入ください。

3年以上滞納の方は、本年4月1日付で改正された会則付則にありますように、理事会での議を経て退会とみなされ、会員資格を喪失します。ただし、この場合であっても、会員資格を有した期間の未納合算額における学会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることとなっておりますので、予めご了承ください。

また、一般会員と学生会員とでは、会費年額が異なりますのでご注意ください。今春、学籍を離れた方は左記「修了などにより学籍を離れた方へ」のとおり事務局までお申し出いただき、一般会員の会費年額をご納入ください。

海外在住の会員の方は、クレジットカードによる年会費の納入が可能です。クレジットカード決済を希望される方は、事務局までご連絡ください。

（局長　鍋島稲子）

◆事務局

会員名簿の誤掲載について

本年2月に発行した会員名簿（2025年度版）において、1名の方の誤掲載が判明しました。個人情報に関わる重大な事態であり、謹んでお詫びを申し上げます。

会員名簿についてお気づきの点がありましたら、本紙2面の事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。いただきましたご指摘をもとに、今期事務局において再発防止策の検討を進めていただく予定です。

（前局長　尾川明穂）

修了などにより学籍を離れた方へ

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。事務局にお申し出いただくことにより一般会員資格の付与などが行われますので、今春に学籍を離れた方は必ずご連絡ください。本会HPの「会員情報変更・退会申込」ページから、または本紙2面の問い合わせ先まで、①お名前、②学籍を離れた日、③新しい所属先をお知らせくださるようお願いいたします。

令和8年度事業・活動計画（案）

本来ならば総会で承認を得るべきものですが、現段階での予定としてここにお示しいたします。変更等の可能性もありますので、ご留意ください。

4月19日　第1回理事会（オンライン会議）
5月15日　第51号《会報》発行及び発送
（以上は執行済み）
6月1日　「研究促進助成金制度」申請受付（～7日）
6月下旬　令和7年度決算会計監査
6月30日　第36回大会発表申込締切
7月12日　第1回常任理事会（オンライン会議）
2026年度例会（オンラインライブ配信）
8月下旬　第2回理事会（メール会議）
9月下旬　《大会のしおり》《大会レジュメ集》発行及び発送
10月24日　第3回理事会（定例）（於群馬大学）
令和8年度総会（於群馬大学）
第36回大会一日目（於群馬大学）
10月25日　第36回大会二日目（於群馬大学）
10月31日　第36号『晝学書道史研究』発行及び発送
12月下旬　第4回理事会（メール会議）
12月31日　第37号『晝学書道史研究』投稿申込締切
1月15日　第52号《会報》発行及び発送
2月28日　2027年度例会発表申込締切
3月21日　第2回常任理事会（オンライン会議）
3月31日　第37号『晝学書道史研究』投稿原稿締切

（局長　髙橋佑太）

●氏名・住所・電話番号・ご所属・メールアドレスに変更があった方
●学生会員で学籍を離れた方
●退会を希望される方

学会HP「会員情報変更・退会申込」ページに、事務局へのメールフォームがございますので、ご利用ください。

談話室

上田桑鳩《愛》

剣持　翔伍

兵庫県立美術館コレクション展Ⅱの「兵庫の書」（2月18日～4月5日）において、上田桑鳩の《愛》を展示しました。第7回日展（1951年）の出品作である本作は、「品」と読める作品のタイトルが「愛」とされたことにより物議を醸した話題作であり、書に親しむものは誰もが知る作家の代表作の一つでしょう。

本作を初めて目の当たりにされた来場者も多く、図版では充分に感知できない墨色や画面構成について、さらに並べて展示した知られざる《愛》の別作（同年）との比較を通じて、様々な感想をいただくことができました。

作家の故郷に程近い当館の所蔵となった本作について、今後さらなる公開・活用を進めると同時に、今一度客観的にその評価や史的位置づけに関して検討してゆきたいです。

書の力を信じて

佐藤　汰一

筆の産地として名高い広島の地に教壇を構え、早いもので4年が経ちました。地元の生徒たちにとっても身近な存在であるはずの書ですが、現実には学年が進むにつれ書から遠ざかり、高校を最後に筆を置く生徒も少なくありません。

私は、生徒たちにより書の魅力を感じてほしく、クラスの標語を自ら揮毫し、教室後方に掲示する試みを始めました。生徒たちは「この字が好きだ、嫌いだ」や「標語に重みが増した気がする」と直感的な感想を話してくれました。

書道の教員だからこそ、単に技法としての書「を」教えるに留まらず、書「で」何を伝えることができるか。生徒たちと一緒に学び、成長し続けていきたいと願う日々です。

筆と硯と

橋本　貴朗

今春、勤務先の國學院大學では、文房四宝に関する二つの企画を開催しました。

一つは、3月7日の特別講座「正倉院の筆が伝えるもの―奈良時代からのメッセージ―」です。「正倉院宝物特別調査（筆）」の成果を社会に還元することを主たる目的とするもので、宮内庁正倉院事務所の飯田剛彦所長・西川明彦前所長を迎えて、正倉院の概要・文房具について講演をいただき、その後、特別調査の調査員より正倉院の筆の構造や機能、書跡との関係等の報告が続きました。正倉院の筆は、今日一般の筆とは異なり、芯毛を紙で巻き、その上から毛をまとわせていく有芯筆です。その製法を伝える攀桂堂 藤野雲平氏には、製作実演も披露いただきました。特別調査の詳細は『正倉院紀要』43号・44号を参照ください（宮内庁HPよりダウンロード可能）。

もう一つは、同日開幕した大學博物館での「和の硯―SUZURI―」展です。先年急逝された佐野光一教授のコレクションから厳選した二十六産地・二百余面の和硯を中心とするもので、この規模の和硯の展観は国内初の試みかと思われます。5月10日をもって閉幕となりましたが、オンラインミュージアムをユーチューブで視聴いただけます（國學院大學博物館で検索）。

両企画とも本学会HPで紹介していただき、おかげさまで多くの御来場を賜りました。この場を借りて、篤く御礼申し上げます。

『日本中国書法研究訳叢』の刊行に際して

李　逍宇

2025年11月、陳振濂先生主編のもと上海書画出版社より『日本中国書法研究訳叢』第一輯として、杉村邦彦『王羲之叢考』、萩信雄『金石書史研究』、河内利治『文人交友与書法美学』など全5冊が刊行された。本シリーズは、戦後から現代に至る日本の書学研究者による中国書法史研究の成果を体系的に翻訳・紹介するものであり、中国の研究者が日本の書学研究の方法論に触れる絶好の機会を提供することも、刊行の意義として挙げられる。

このたび私は幸いにも、第三輯に所収予定の神田喜一郎『中国書道史』の翻訳を担当することとなった。その際、本書の内容はもとより独特の文章表現においても、原著に忠実であるよう心がけている。日本で学ぶ留学生として、日本の学術的厳密さを日々感じるとともに、本シリーズの刊行が日中書学交流のさらなる発展や深化につながることを心より期待している。

編集後記

◆第19期の副広報局長を務めさせていただきます。業務の引継ぎを通じて、これまで本学会を盛り立ててくださった理事の先生方の陰のご尽力に改めて気づかされました。皆様に滞りなく会報誌をお届けできますよう努めますので、何卒宜しくお願い致します。（峯岸佳葉）

◆前職の早稲田大学會津八一記念博物館で「雲岡へのまなざし―小川晴暘が見つめた中国仏教遺跡」という展覧会が開催中です。皆様には龍門石窟の方が馴染み深いかと思いますが、また一味違う大らかな雲岡石窟の仏菩薩の姿を写し取った拓本を堪能できます。よろしければ足をお運びください。（徳泉さち）

◆デジタルに明るいとは言えない私も、生成AIの恩恵を実感しています。うまく活用すれば作業の効率化にもつながり、有益な存在です。学術的な利用にはなお課題もありますが、今後ますます欠かせないものになっていくでしょう。そのためにも、私たち自身のリテラシーを高めていくことが重要だと感じています。（藤森大雅）

◆台湾の学校と交流を始めたいという勤務校の方針から、先日訪台し、隙間時間で台北故宮博物院を見学させてもらいました。何時間いても飽きない充実した展示内容でしたが、中でも宋版印刷物を集めた部屋は、美術品としての図書の価値を実感できるものでした。（正岡知晃）

◆今期より広報局を担当させていただきます。会報は学会誌やHPとともに、学会の活動を皆さまに伝える重要な広報の場だと思っております。微力ではありますが、しっかりと取り組んでまいりますので、引き続きご支援くださいますようよろしくお願いいたします。（増田知之）